
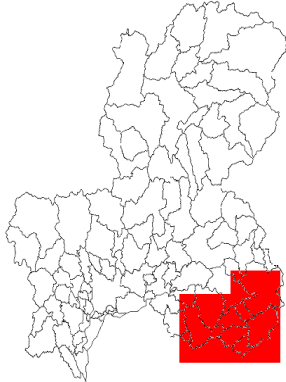


キバナハナネコノメ	<i>Chrysosplenium album</i> Maxim. var. <i>flavum</i> H.Hara	絶滅危惧Ⅱ類
(環境省:準絶滅危惧)		ユキノシタ科
選定理由	生育地が過度に分断され、生育面積が狭く個体群も極めて小さい。	写真(後藤常明) 
形態の特徴	高さ7cm程度の軟弱な多年草。3-5個の円鋸歯のある小さな葉は1cm弱で対生し、軟毛は目立たない。丸い4個の萼(がく)片ははじめ鮮黄色で斜開し、雄蕊(しべ)が突出する。裂開前の雄蕊の葯(やく)は朱~橙黄色。	
生態的特徴	個体群は、山地の明るい谷の水湿が絶えない岩上や土砂堆積地に枝を伸ばして張り付く。花期は3月下旬-4月。	
分布状況	日本固有種。静岡県、愛知県、岐阜県の一部にのみ分布する。	
減少要因	植林地の管理放棄など林下の日照不足、森林開発などによる沢や谷の土砂の流失や生育地の環境変化。山野草愛好家や園芸業者などによる採取圧も無視できない。	
保全対策	生育地の保全、採取の制限。	
特記事項	水系上部も含めた生育地の適正管理、工事に当たっては設計段階以前に生育地の保全管理方法の検討、採取の制限が必要。	
参考文献	佐竹義輔他編集(1982)日本の野生植物 草本Ⅱ 離弁花類:p.160. 平凡社 矢原徹一監修(2003)ヤマケイ情報箱レッドデータプラント:P.295. 山と溪谷社	